

会 議 録

会 議 の 名 称	平成27年度第1回史跡大森勝山遺跡整備指導委員会
開 催 年 月 日	平成27年8月19日(水)
開 始 ・ 終 了 時 刻	午前9時30分から午前11時45分まで
開 催 場 所	岩木庁舎2階会議室
議 長 等 の 氏 名	委員長 工藤竹久
出 席 者	委員長 工藤竹久 委員 岩瀬直樹 委員 岡田康博 委員 関根達人 委員 須藤司 オブザーバー 県教育委員会文化財保護課 小笠原総括主幹
欠 席 者	なし
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	文化財課長 三上敏彦 同課埋蔵文化財係長 岩井浩介 同課主事 東海林心 同課主事 福原健 同課主事 工藤麻衣
会 議 の 議 題	(1) 史跡大森勝山遺跡整備計画について (2) その他
会 議 結 果	別添議事録のとおり
会 議 資 料 の 名 称	
会 議 内 容 (発 言 者 、 発 言 内 容 、 審 議 経 過 、 結 論 等)	別添議事録のとおり

【会議内容要旨】

議題（１）史跡大森勝山遺跡整備計画について

事務局 : 事務局案に基づく予定だが、今年度内の整備計画策定を受け、平成 28 年度に整備基本設計及びアクセス道路に係る現況測量、平成 29 年度にアクセス道路（路盤整備）実施設計及び工事（1 次）、平成 30 年度にアクセス道路（路盤整備）工事（2 次）、平成 31 年度に遺跡整備実施設計及び工事（1 次）、平成 32～33 年度遺跡整備工事（2～3 次）、といったスケジュールを想定している。よって、本整備期は平成 29 年度以降となる。なお、ガイダンス施設については、これらの整備と並行して設計・整備を行う必要があるものと考えている。

世界遺産登録が差し迫りつつある現状と課題状況から、具体的な整備を早急に進める必要があるとも考えている。

工藤委員長 : アクセス道路整備の財源はどうなるのか。

事務局 : 路盤整備までは史跡整備に係る工事用道路として、文化庁の補助対象としたいと考えている。

工藤委員長 : 世界遺産登録推進の盛り上がりがあるうちに進めた方がよい。

岡田副委員長 : 初期整備はいつまでで、本整備期はいつからか。

事務局 : 初期整備については「保存管理計画」で早急に進めるべきものとして示していた。既に着手済みのももあり、現在進行形のものとなっている。本整備期は実施設計及び現地工事が開始予定となる平成 29 年度以降を示すものとなる。

岡田副委員長 : 周辺環境等の保全について、河川はそのままか。

事務局 : 基本的にはそのまま維持管理する。

岡田副委員長 : アクセス道路については整備予定のルート図を作成することは可能か。周辺環境（緩衝地帯）に含まれるほか、補助対象としたいとのことから、本委員会に諮った上で、文化庁にも協議が必要となると思う。

事務局 : 図面の作成は可能。文化庁協議前には委員会に諮るものとしたい。

須藤委員 : 世界遺産登録が見えてきている。是非、財政を説得してほしい。

関根委員 : 大森勝山遺跡は、アクセス道路が大きな問題だと考えている。環状列石の整備については先行例があるが、大森勝山遺跡では異なる考え方

で整備されることとなる。来訪者には遺跡の良さは理解されると思うので、他の環状列石と比較した形での説明をしていけばよい。

また、大森勝山遺跡は環状列石としては稀有な縄文時代晩期亀ヶ岡文化の所産だ。亀ヶ岡文化の特徴についても、周辺の十腰内遺跡や砂沢遺跡等の時代の異なる重要遺跡とも絡めて、全体的な時代の流れの中で説明して行ってほしい。

素案中にもあるが、市の歴史・文化に係る展示状況は、残念ながら良い状況とは言えない。本遺跡の展示施設とも関連する話であり、抜本的な整理をして行ってほしい。市では史跡、有形文化財等と、文化財類型間に考え方や捉え方の差異があり、関連付けて整理し、展示・公開活用を進める必要がある。

事務局 : 本計画でも、市の中での遺跡の位置づけを念頭に置きつつ整理したい。

工藤委員長 : 整備では、遺跡の本来のあるべき姿を示していくものとしてほしい。この整備計画では、結果的に、遺跡本体よりも関連施設整備のウェイトが大きくなるだろう。

事務局 : 素案にもあるように、景観等の遺跡の有する潜在能力は高いものと考えており、遺跡本体ではそれを活かした「手をかけすぎない」整備としたいと考えている。そのかわり、アクセス環境等の向上や、約6か月間にわたる冬季間の公開活用施設としてのガイダンス施設整備等、周辺施設の整備をしっかりとやる方向で考えていきたい。

工藤委員長 : イベントはどのような形でやっているのか。

事務局 : 地元町会や教育機関、民間、市等で構成された「史跡大森勝山遺跡保存活用推進会議」主催で、8月に「大森勝山 じょうもん祭り」を開催している。今年にはスタッフ併せて300名の参加者があった。市ではこの会議に負担金を出している。また、昨年「弘前縄文の会」という有志の会も設立されており、祭りの手伝いの他、精力的な活動を行っている。

工藤委員長 : 県の方から何かないか。

小笠原県主幹 : 今後も国と連携して進めて行ってほしい。

議題(2) その他

事務局 : 今回の指導を受けて、引き続き具体的な整備内容について整理し、整備計画への追記を進めたい。なお、整備基本計画図の作成及び概算事業費の積算等については、業者に別途委託予定。